

神戸ウォーターフロントグランドデザイン

2025年4月発行

編集・発行
神戸市



ウォーターフロントの最新情報を掲載しています。

神戸ウォーターフロント グランドデザイン

KOBE WATERFRONT REGENERATION

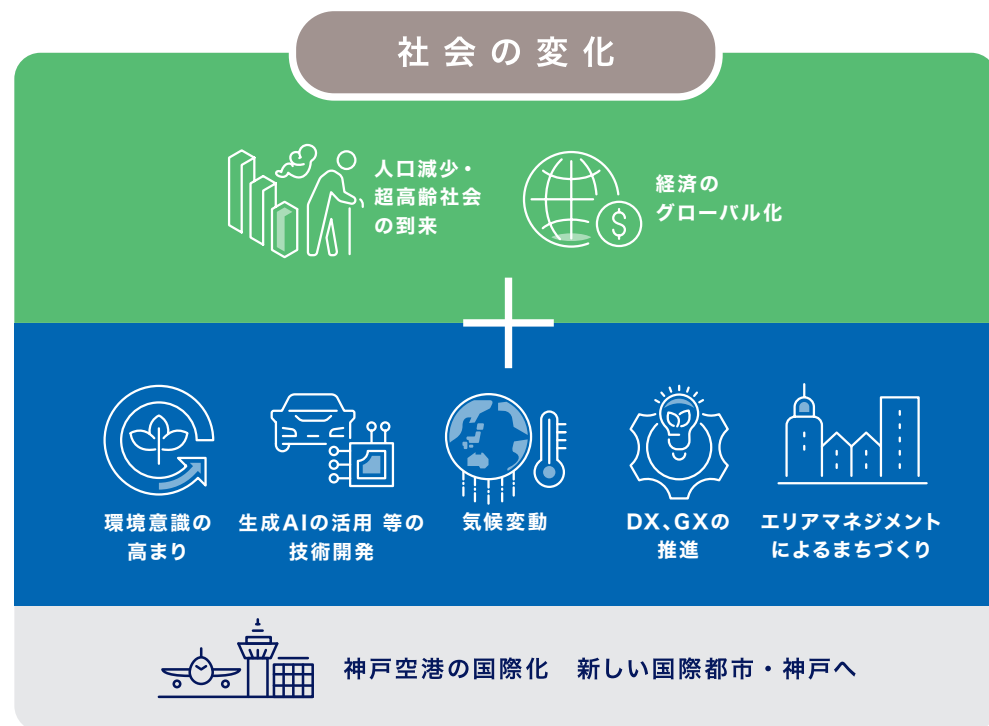
2025.4

神戸市

神戸ウォーターフロントグランドデザイン

「神戸ウォーターフロントグランドデザイン」は、神戸空港の国際化や都心三宮再整備の進捗など、神戸をとりまく社会情勢が大きく変化する中で今後、概ね10～15年間(2040年頃)にウォーターフロントで取り組む施策の方針を示すものです。

本グランドデザインは取り組みの方向性を示すもので、個別具体の取り組みについては社会経済情勢を踏まえ、関係者や利用者の意見を聞きながら進めていきます。また、ウォーターフロント再開発事業の進捗や社会経済情勢の変化にあわせて、概ね5年程度で改訂を行います。



神戸は海と山に囲まれた美しいみなとまちです。開港以来、海外との交流を重ね文化や交流を日本に生み出してきました。

コンテナ船の時代になって港の機能がポートアイランドや六甲アイランドなどの沖合に移って行く中、かつての港湾物流を支えた新港突堤西地区などの旧臨海部では、ウォーターフロントの再開発によって、見違えるような姿に変わりつつあります。

2012年から進めてきたウォーターフロントの再開発は、神戸ポートタワーのリニューアルや新港第二突堤のアリーナ開業という大きな節目を迎え、新たなステージに入ります。

神戸空港の国際化によって神戸が新たな国際都市へと進化する中で、世界を臨む海や空から人が集い、新たな価値の創造を実現する魅力的なウォーターフロントとなることを目指していきます。



神戸市長 久元 喜造

全体コンセプト

海、山、空を感じ、
みなとまちの歴史と
未来をつなぐ、
新たな価値創造



海、山、空を感じられる開放的な海辺空間
新しい発想や価値が生まれ、人が集い交わる交流拠点
港の歴史と新たな価値が交わり、
国内外からの来訪者を魅了するまち



エリアコンセプト

エリア名称	中突堤周辺	京橋	新港突堤西
エリアコンセプト	みなとまちを感じる エンタテインメント空間	回遊・賑わいをつなぐ ウォーターフロントの エントランス	リゾート気分を あじわえる空間 新たな感動や熱狂が 生まれる場所
機能	観光・商業	モビリティの拠点・商業	アリーナ・緑地・マリナー・ 宿泊・文化・業務・居住・ 交流(海上)

ウォーターフロントの戦略

移動・回遊

戦略

1

居心地がよく、歩きたくなる空間

THEME

- ・ウォーカブルな空間整備
- ・新たな交通システム(LRT等)の導入
- ・デジタル技術の実装



世界の多くの都市で、まちなかを、車中心から人が中心の空間に再編して、憩い・楽しめる場とする取り組みが進められています。安心して歩ける空間や緑、テラスやパブリックスペースの活用など、居心地がよく歩きたくなるような空間(ウォーカブルな空間)を整備します。
ターミナル駅からのアクセスやウォーターフロントの東西方向の移動をスムーズにできるように、LRT・BRTなどの新たな交通システムや、様々な人が自由に回遊できる次世代モビリティの導入を検討します。

用語説明
LRT: Light Rail Transitの略。低床式車両の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システム。
BRT: Bus Rapid Transitの略。連節バス、PTPS(公共車両優先システム)、バス専用道、バスレーンなどを組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム。

緑とオープンスペース

戦略

2

海をのぞみ、自然を感じる風景

THEME

- ・海を感じる風景・眺望
- ・緑のネットワーク(グリーンコネクト)
- ・気候変動への対応

神戸は六甲の山並みと瀬戸内海に抱かれた美しいまちで、特に海から見る六甲山を背景にした港と市街地の景観は他の都市にはない絶景です。これらの恵まれた自然環境や歴史的資源を生かし、海と自然を感じることができる風景や眺望を大切にしながらウォーターフロントの空間づくりを進めます。

緑豊かなオープンスペースは人々に潤いやゆとりを与えるとともに、気候変動対策においても重要な役割を果たします。ウォーターフロント全体で緑をネットワーク的につなぎ(グリーンコネクト)、水と緑あふれるまちを目指します。



全体コンセプトを実現するために、「移動・回遊」、「緑とオープンスペース」、「夜景・ナイトタイムエコノミー」、「民間投資によるまちづくり」という4つの戦略を定めます。

夜景・ナイトタイムエコノミー

戦略

3

神戸を象徴し、人を誘う夜景

THEME

- ・上質なライトアップやイルミネーション
- ・夜型観光コンテンツの充実



都市空間を美しく彩る照明は観光やまちづくりに欠かせません。夜景が美しい街は、それを観光資源と意識しながらその街らしさを創り上げ、散策しながら夜景を楽しむスポットがあるまちづくりを行っています。神戸ポートタワーや神戸海洋博物館など神戸を象徴するランドマークが並ぶ景観にさらに磨きをかけるとともに、花火や光のデジタルアートなど、様々な夜型観光コンテンツを通じて人を誘う夜景を演出し、ナイトタイムエコノミーや滞在型観光を推進します。

民間投資によるまちづくり

戦略

4

産官学によるまちづくり

THEME

- ・民間投資を誘発する公共投資・規制緩和
- ・高質なオープンスペースや回遊デッキの整備
- ・エリアマネジメントによる賑わい創出

活気あふれる魅力的なまちを創っていくためには、民間事業者による良質な投資を呼び込み、産官学が一体となってまちづくりを進めていくことが重要です。ウォーターフロントのまちづくりの方向性を示すとともに、必要なインフラ整備や規制緩和、新たな技術の導入など、民間投資を誘発するための取り組みを進め、高質なオープンスペースや回遊デッキの整備など、民間投資による高質なまちづくりを進めます。
神戸ウォーターフロント開発機構を中心としたエリアマネジメントにより、緑による潤いや癒し、音楽やアート、スポーツなどの賑わいを提供し、人が集う新たなコミュニティを形成します。



みなとまちを感じるエンタテインメント空間

中突堤周辺



みなとまち神戸を象徴する地区です。観光や商業機能をプラスしながら、緑あふれる空間へとさらに進化させ、多くの人が集う空間を目指します。様々な主体が関わりながら、海と空の開放感を活かしたイベントなどから賑わいを生み出し、エリアの価値を向上させます。

取り組み
内 容

- ・ 開放的でウォーカブルな空間整備
- ・ 中突堤中央ビル再整備
- ・ かもめりあ周辺再整備

商業・観光拠点

港と一体となった賑わい

緑豊かなウォーカブル空間の創造

回遊性の向上
(歩行者空間の確保・海上デッキ)



1 港と一体となった賑わいのある 商業・観光拠点

CONTENT | 導入する機能のイメージ

中突堤中央ビルを神戸ポートタワーと一体となった商業・観光の拠点として再整備します。またメリケンパークとハーバーランドの回遊性を高め、港と一体となった賑わいを生み出すために、中突堤中央ターミナル(かもめりあ)周辺の活性化・再整備を図ります。



2 緑豊かなウォーカブル空間の創造と 回遊性の向上

CONTENT | 導入する機能のイメージ

神戸ポートタワー周辺の道路・公園空間を再整備して、アクセスのしやすさにも配慮しながら東西の回遊性を高め、緑豊かでウォーカブルな空間を海辺に創造します。公園にはキオスク(小さな売店)やカフェ、レストランなどがあり、来園者はくつろぎながら、ゆったりと時間を過ごすことができます。地域の農産品や加工品のマーケットなど様々な催しが開催され、賑わいや交流が生まれる場所となります。

回遊・賑わいをつなぐウォーターフロントのエントランス

京橋

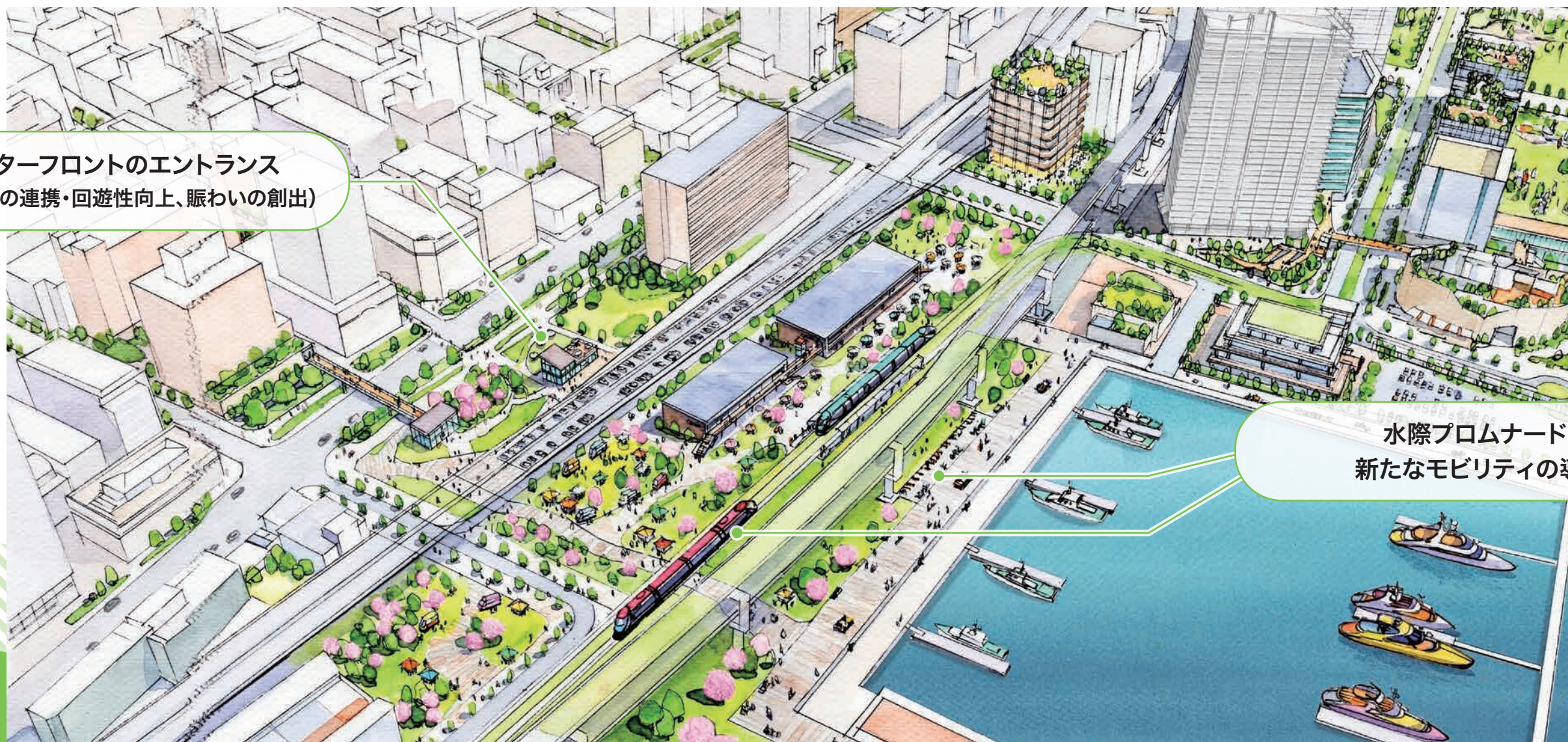


都心エリアとつながるウォーターフロントのエントランスです。LRTやモビリティなど様々な交通モードと水際プロムナードがつながる交通、情報発信の拠点となる空間を目指します。

取り組み 内容

- ・ 船溜まりの埋立
- ・ 賑わい施設の誘致、緑地整備
- ・ 旧居留地との連携・回遊性向上

ウォーターフロントのエントランス
(旧居留地との連携・回遊性向上、賑わいの創出)



水際プロムナード・
新たなモビリティの導入



1 ウォーターフロントのエントランス

CONTENT | 導入する機能のイメージ

阪神高速3号神戸線の大規模改修とあわせて、開放的な緑地や遊歩道、旧居留地方面への歩行者デッキなど、回遊性を高める整備を行います。エリアの拠点施設として、飲食や物販、音楽やスポーツなどの複合的な機能を備えるなど、人が集まり、その賑わいが周辺のまちに広がっていくような賑わい施設の導入を図ります。



2 水際プロムナードと 新たなモビリティの導入

CONTENT | 導入する機能のイメージ

水際の開放的なプロムナードを整備して、新港突堤西と中突堤周辺のつながりを高めるとともに、LRT・BRTやシェアモビリティなどの新たな交通システムとプロムナードがつながる、回遊の拠点となる空間を目指します。

リゾート気分をあじわえる空間・新たな感動や熱狂が生まれる場所

新港突堤西



インバウンドなども対象に、アクティビティやリゾートホテルなど、ここでしかあじわえない雰囲気や盛り上がりを楽しめる空間を目指します。最先端のテクノロジーも活用しながら様々な用途の空間が混ざり合う活力あふれるまちづくりを進めます。

取り組み
内 容

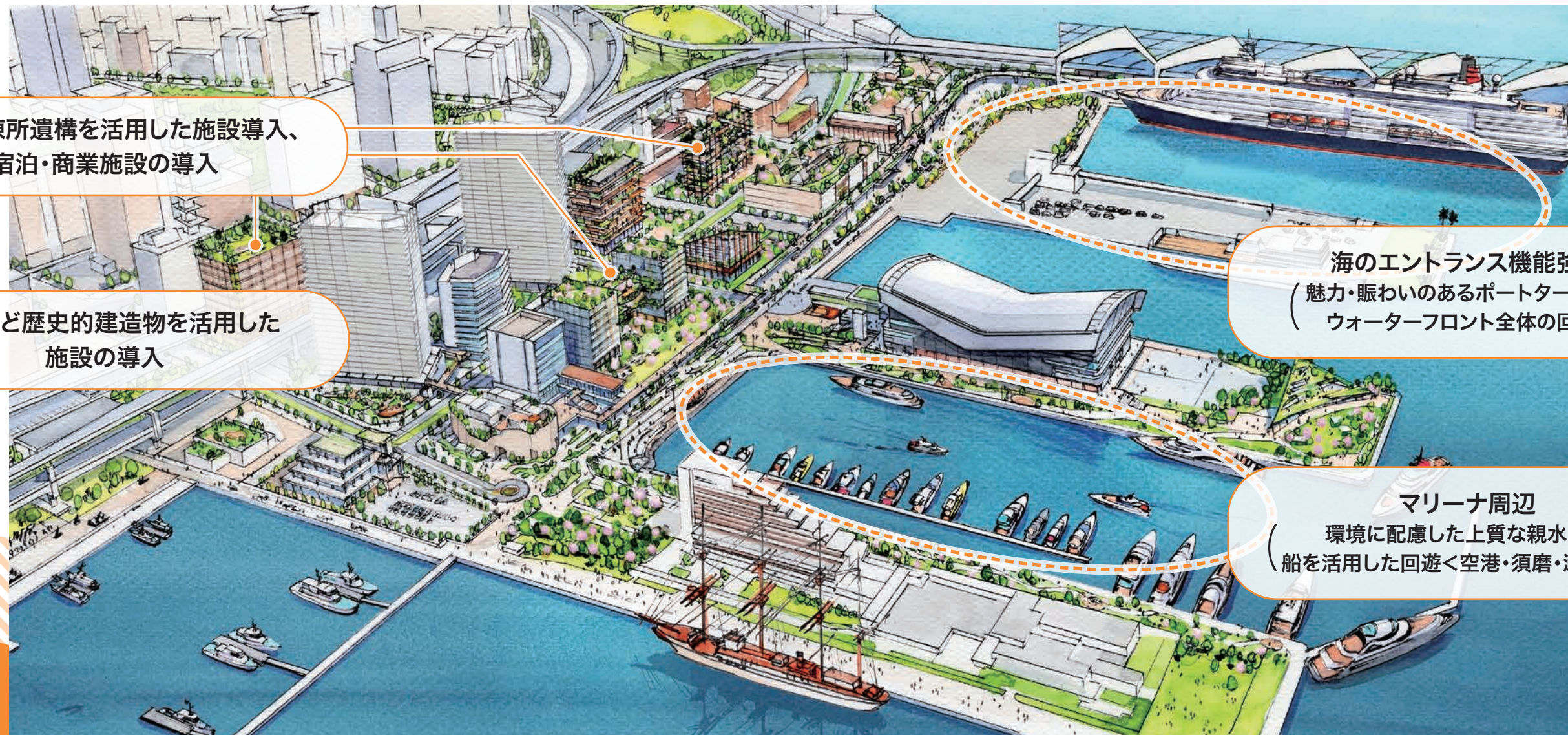
- ・ マリーナ誘致・周辺整備
- ・ 次期再開発（宿泊・商業施設の誘致）
- ・ 海のエントランス機能の強化

海軍操練所遺構を活用した施設導入、
宿泊・商業施設の導入

倉庫など歴史的建造物を活用した
施設の導入

海のエントランス機能強化
（魅力・賑わいのあるポートターミナル、
ウォーターフロント全体の回遊性）

マリーナ周辺
環境に配慮した上質な親水空間、
（船を活用した回遊＜空港・須磨・瀬戸内等＞）



1 海軍操練所遺構や倉庫など歴史的建造物を活用した施設整備 宿泊・商業施設の導入

CONTENT | 導入する機能のイメージ

オフィスや商業、ミュージアム、ホテル、居住空間などいろいろな用途の機能をあわせもつことで、エリアが「まち」として機能します。海軍操練所の遺構や歴史的な建築物など、神戸港の歴史を感じる地域資源や街並みを活かしながら、新たな機能の導入を図ることで、様々な人々が訪れ、利用する「ミクスْتُユース」のまちづくりを進めます。



2 マリーナ周辺や 海のエントランス機能強化

CONTENT | 導入する機能のイメージ

新港第1・第2突堤は、マリーナを取り囲む水と緑の空間をレイアウトし、海を身近に感じ、くつろぎながら過ごせるリゾート空間を創出します。新港第3・第4突堤は、ポートターミナルに新たな魅力や賑わい機能を導入するとともに、ポートターミナルから第1・第2突堤方面の回遊性向上に取り組み、神戸空港や瀬戸内海などつながる海のエントランス機能を強化します。

神戸の夜を楽しみ、夜景を愛でる空間へ

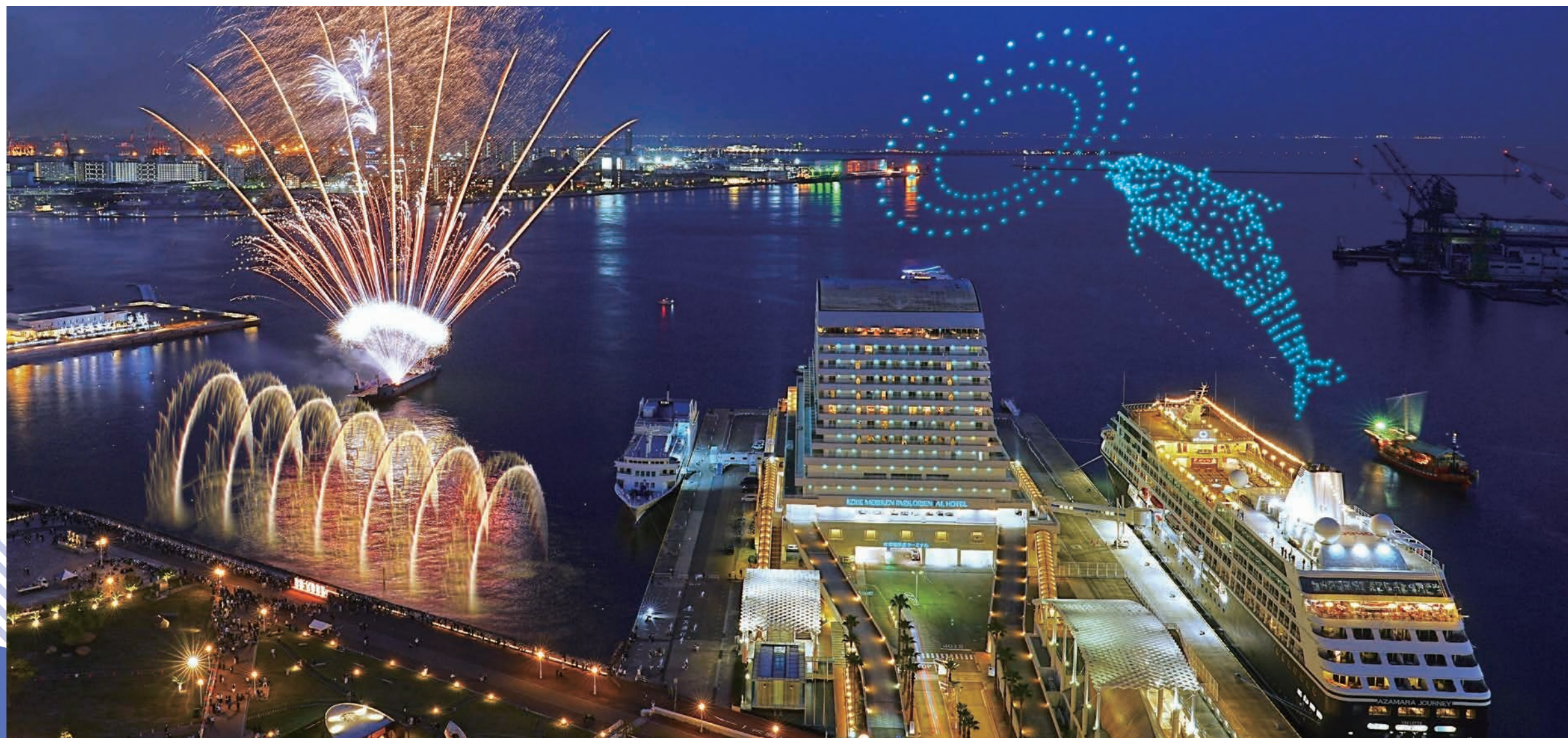
夜間景観



美しい夜景は、欠かすことのできない神戸の魅力です。さらに磨きをかけ、夜も“美しいみなとまち神戸”として、ナイトタイムエコノミーを広げて、泊まりたい観光地となることを目指します。ウォーターフロント全体で、再生可能エネルギーを積極的に活用し、SDGsの実現に取り組みます。

取り組み
内 容

- ・ 上質なライトアップやイルミネーション
- ・ 夜型観光コンテンツの充実



1 上質なライトアップやイルミネーション

CONTENT | 導入する機能のイメージ

ウォーターフロントの特色である、海上や対岸の突堤から見る夜間景観は、みなとまち神戸を象徴するもので、再開発事業では官民一体となって、さらに磨きをかけていきます。エントランスから水際へと誘導する、上質なライトアップをウォーターフロント全体に広げて、人を誘う夜景を創出します。



2 夜型観光コンテンツの充実

CONTENT | 導入する機能のイメージ

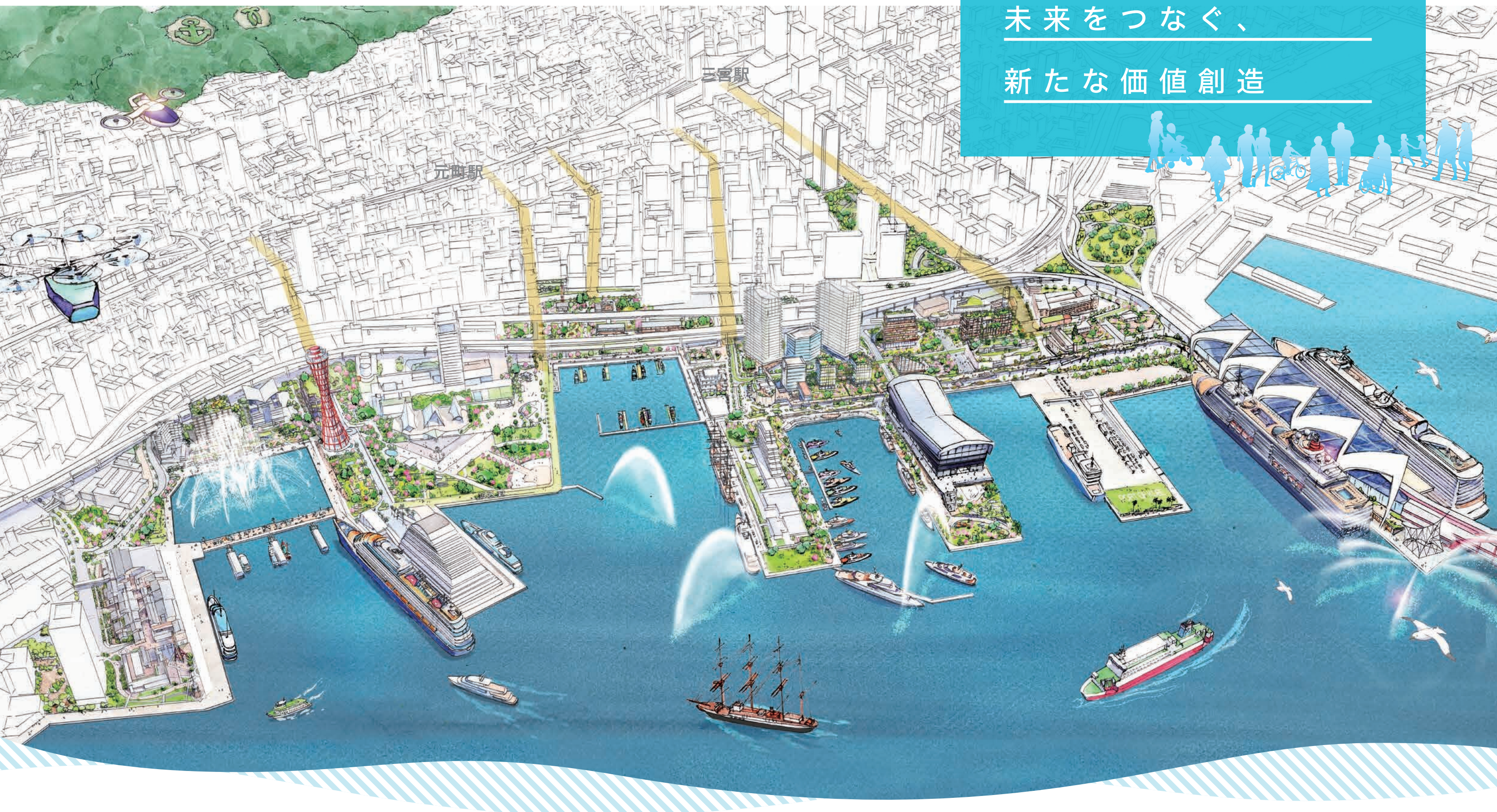
一年を通じて、神戸ポートタワーや神戸海洋博物館などの多様な建物が連動する光と音の演出や海上花火を開催するとともに、季節にあわせた光のアートイベントやイルミネーションなど、みなとの夜を楽しめる観光コンテンツを広げていきます。さらに水際の立地ならではの、水と光の演出に取り組みます。

ウォーターフロントの将来イメージ

2040年頃

KOBE WATERFRONT REGENERATION

海、山、空を感じ、
みなとまちの歴史と
未来をつなぐ、
新たな価値創造



ウォーターフロントの再開発の動向



2011

3月
「港都 神戸」グランドデザイン
策定

2012

2012年撮影

2014

9月
神戸三宮フェリーターミナル
供用開始

2015

12月
ラ・スイートオーシャンズガーデン、
神戸みなと温泉 蓮 開業

2017 (開港150年)

4月
メリケンパークリニューアル
5月
新港第1突堤基部再開発着手
7月
神戸ポートオアシス供用開始

2021

1月
Stage Felissimo開業
4月
ジーライオンアワーズビル開業
5月
株神戸ウォーターフロント開発
機構設立
10月
神戸ポートミュージアム開業

2022

12月
「神戸ウォーターフロントビジョン」
策定

2023

1月
ベイシティタワーズ神戸WEST
竣工

2024

4月
神戸ポートタワー
リニューアルオープン

2025

2月
ベイシティタワーズ神戸EAST竣工
3月
ラスイト・ルパンビル開業
4月
ジーライオンアリーナ神戸開業

神戸港の歴史・変遷

- 1864年 海軍操練所設立
- 1868年 神戸開港
メリケン波止場築造



京橋付近 | 1879年

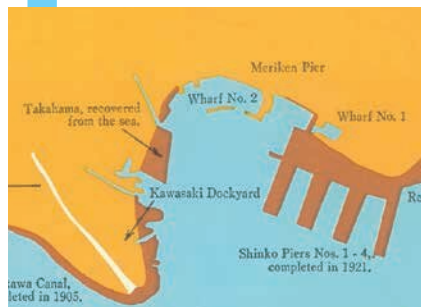


新港突堤西 | 1956年



神戸ポートタワー | 1963年

- 1907年 新港第1～4突堤着工
(1922年全工事竣工)
- 1923年



メリケン波止場 | 1923年



新港突堤西 | 1981年

- 1929年 中突堤着工
(1938年竣工)
- 1940年



中突堤周辺 | 1934年



中突堤周辺 | 1987年

- 1963年 神戸ポートタワー開業
- 1966年 ポートアイランド(第1期)着工
(1981年竣工)
- 1967年 コンテナ船初入港
- 1972年 六甲アイランド着工
(1992年竣工)
- 1981年 「ポートピア'81」開催
- 1984年



- 1987年 メリケンパークオープン
- 1992年 神戸ハーバーランドオープン
- 1995年 阪神・淡路大震災
- 1998年 中突堤中央ターミナル
「かもめりあ」供用開始
- 2006年 神戸空港開港